

私は、日本人の価値観が将来2つの点で変化すると考える。

第一は、社会生活を営む上で必要とされる自助、互助、共助、公助のうち、共助と公助の役割を重視する傾向が強まることだ。最近、政府は「自助、共助、公助の組み合わせが重要」だと主張している。しかし、少子高齢化が進行する中で、高齢者に多くの自助を求めることはできない。また、互助も低下している。新型コロナの感染拡大も影響しているのかもしれない。例えば、以前のように地域や会社に関わる結婚式が減少し、結婚式をしない「なし婚」や「家族婚」が広まっている。葬式も「家族葬」がほとんどだ。

自助と互助への期待の減少は、社会保険のような「共助」や生活保護のような「公助」の役割への期待を増大させると考える。

第二は、選択と集中が進むことだ。これは企業戦略として語られることが多い。しかし、私は多くの自治体や家族も同じ考え方をしていると感じる。例えば、日本全国に、限界集落が広がる一方で、多くの自治体に移住促進に取り組んでいる。そして、それに応募して首都圏や関西圏から地方都市へと移住する家族が増えている。今はまだ東京への一極集中が進行中だが、家族の生活力と自己実現を考慮するとき、いつか逆転するだろう。

このように、私は、家族あるいは家族の一人ひとりが選択と集中を意識して行動する傾向を強めると考える。